

学番 3 4 新潟県立長岡向陵高等学校
令和7年度シラバス (外国語) 学番 3 4 新潟県立長岡向陵高等学校

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーション I)	単位数	4 単位	学年	1 学年
使用教科書	Heartening English Communication I (桐原書店)				
副教材	Heartening English Communication I 学習ノート (桐原書店) Focus on Listening Basic (エミル出版) Reading Flash 1 (桐原書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション ・ポリシー	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる能力を育成します。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい態度を育成します。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい心を持つ姿勢を育成します。
カリキュラム ・ポリシー	①選抜性の高い大学や専門学校受験に対応できる教科・科目を重点的に配置し、1・2 学年では全員が共通の教科・科目により、広く基礎的な知識・技能を学びます。3 学年では大学文系・理系選択を主とした選択科目により、個々の進路目標や興味・関心に合わせて学びます。 ②授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの充実と探究的な学びの実現に向け、ICT を積極的に活用し、学習評価の妥当性・信頼性をより一層高めるなど、不断の授業改善を行います。 ③「総合的な探究の時間」では、各教科学習で身に付けた知識・技能等を活かし、課題発見・解決力の育成を主とした地域探究活動を行います。思考力や判断力・表現力、情報活用・プレゼンテーション能力等も育成し、自己の将来の在り方生き方の確立に関連付けます。 ④学校行事や部活動では、安全安心な環境整備に努め、生徒の主体的な活動を支援するとともに、多様性を尊重し他者と協働して対処していく力を育てます。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

基礎力育成と英語によるコミュニケーション力の育成の観点から、以下のことを目指す。 ①自己表現や読解力の基盤となる語彙を増やし、確実に習得すること。 ②自分と異なる意見を尊重し、自分の意見を英語で表現する力を身に付けること。 ③比較的ゆっくり話されれば、身近なことに関する話の概要や情報を聞いて理解できるようになること。 ④教科書レベルの英文であれば、辞書を使わずに概要を掴む力と、辞書を用いて正確に内容を読み取れる力を身に付けること。 ⑤教科書の内容について、簡単な意見を英語で話して伝えられるようになること。 ⑥教科書の英文の内容を理解し、キーワードをもとに英語で要約できるようになること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 外国語の技能(読むこと・聞くこと・話すこと[やり取り・発表]・書くこと)について、コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりしている。またその話題について、情報・考え・気持ちなどを論理性に注意して伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを取ろうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題テスト ・小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・リスニングテスト・パフォーマンステスト ・ワークシート等における記述 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・授業中の言語活動への取組状況 ・ノートやワークシート、提出物などの取組状況 ・振り返りシートにおける記述 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Lesson 1	Bringing Out the Best in Himself	▷現在形／過去形／進行形／未来表現 ▶フレーズ・リーディング、パラグラフの構成、代名詞の役割 ・スポーツ選手の成功やインタビューの情報を整理して伝える	11	「5 評価方法」 のとおり
5	Lesson 2	Hold On, Anzu!	▷現在完了形／現在完了進行形／過去完了形／過去完了進行形 ▶資料（グラフ、数値の増減や比較の表現）を使った説明 ・保護犬について調べ、資料をもとに意見や感想を述べる	13	
	Lesson 3	We Can Make a Difference	▷助動詞／助動詞の過去形 ▶スキミング、スキニング、論理的で説得力のある展開 ・世界各地の気候変動やCO ₂ 削減の取組について話し合う	13	
6	Lesson 4	Creative Problem Solving	▷さまざまな受動態（be 動詞＋過去分詞）／前置詞 ▶賛成／反対の表明を表す表現、具体例を含んだ主張の展開・構成 ・ポイ捨てを減らす方法について、具体例をもとに伝える	13	
7 8 9	Lesson 5	Canned Bread to Feed the World	▷不定詞（to＋動詞の原形）／SVO＋to do／知覚動詞／使役動詞 ▶時間的順序を表すディスコースマーカー、時間や場所の情報の活用 ・救缶鳥プロジェクトやパンの缶詰に関する情報を整理して伝える	13	「5 評価方法」 のとおり
	Lesson 6	Could We Have a Real Jurassic Park?	▷動名詞（doing）／SVC（分詞） ▶原因・結果を表すディスコースマーカー、桁の大きな数字の活用 ・恐竜再生に関する情報を整理し、自分の意見を書く	13	
10	Lesson 7	Behind the Price Tag	▷SVOC（分詞）／分詞構文 ▶賛成／反対を表明し、説得力のある理由を含んだ主張の展開・構成 ・相手の意見に賛成・反対を表明し、理由を説明する	13	
11	Lesson 8	The World's Winter Festivals	▷比較に関する表現／従属接続詞 ▶類似性や共通性を示す表現、情報を整理するためのポイント ・日本や世界の祭りの共通性を整理してまとめる	13	
12 1 2 3	Lesson 9	Talking Trees	▷関係代名詞／関係副詞／関係代名詞の非制限用法 ▶文章からイメージ図を描いて概要を捉える ・木のコミュニケーション方法を聞き、描写して理解する	13	「5 評価方法」 のとおり
	Lesson 10	Capturing the Reality of the World	▷仮定法過去／仮定法過去完了／仮定法を使った表現 ▶人物の紹介記事に必要な要素 ・フォトジャーナリスト安田さんの仕事や思いを整理して伝える	13	

計128時間（55分授業）

7 課題・提出物等

- ・各単元のパートごとに教材文の英語要約を課します。本文の内容理解とともに、語彙や文法を正しく使って要約する練習を継続します。また、要約文をもとにした言語活動なども行います。
- ・各単元の終了後に振り返りシートの提出、定期考査終了後にワークブック等の提出を求めます。
- ・学期に1回程度パフォーマンステスト（話すこと・書くこと）を予定しています。詳細については授業内で説明します。設定された条件などを確認し、課題に取り組んでください。
- ・隔週でALTとの授業があります。さまざまな話題についてALTの母国や世界の国・地域などの情報をもとに聞いたり話したりする活動を設定します。積極的に英語を使ってコミュニケーションを取るようにしてください。

8 担当者からの一言

この科目では基本的な文法事項や語彙・表現を理解し、それらを活用できるようにしていきます。基本事項を定着させるには、予習で学んだ内容を授業中で活用し、復習で見直して次につなげるというサイクルが欠かせません。さらに、やり取りや発表を通して他者の意見や価値観・考え方などを知り、意見や主張の論理展開などに取り入れたり生かしたりできるよう、授業時間中の学習活動を大切にしましょう。

(担当：圓堂 愛子)